

前回、発達障害について簡単に説明しましたが、今回は二次障害についてのお話になります。

前回説明したように、発達障害は生まれ持った脳の機能の偏りです。子供の場合であれば、発達障害の特性そのものが問題となることも多いのですが、大人の場合はむしろ、発達障害のみで病院を受診する人は稀です。例えば、発達障害によってコミュニケーションが苦手であり、そのせいで職場で上手く馴染めず結果としてうつ病になってしまうというような他の精神疾患を発症してしまったり、社会でうまくいかないことでイライラが募り、暴力や引きこもりなどの別の問題が発生してしまったりすることがあります。

こういった、発達障害を原因として新たに出てくる問題のことを二次障害と呼びます。大人の場合、こういった二次障害のために精神科を受診することになるケースが多いです。

二次障害にはうつ病や不安障害、アルコール依存症など人によって色々症状があり、それぞれ疾患ごとに治療を行います。一言で言うと一般的なうつ病などと比べて治りにくく、また再発しやすいです。

これは発達障害の人は薬剤に過敏で薬の副作用を感じやすいため十分な薬の量を使えない、そもそも二次障害の原因となった発達障害が改善しないためたとえ二次障害が改善してもまた同じような問題が起きてくる、などといった理由が考えられます。発達障害そのものの生きづらさが二次障害の根底にあり、その解決を図っていく必要があるわけです。病院に行っても治らないなら行っても仕方ないじゃないか、と思う方もいるかもしれませんがそうではありません。病院に行くだけでは良くならないからこそ、病院に行った上で更なる解決の手段を探していく必要があるわけです。

今回は、発達障害の生きづらさと、その解決のために出来ることについて話をしていこうと思います。

医療法人 同和会 千葉病院

【病院概要】

- 診療科
精神科・神経科・歯科（要予約）
- 院長
小松 尚也
- 外来診療時間
平日9:00~12:30（月曜日のみ9:30~12:30）
土曜日9:00~12:30（午後は予約制）
- 休日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）
- 所在地
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL: 047-466-2176 FAX: 047-466-7503
ホームページ: <http://www.chiba-hpon.arena.ne.jp>
- 千葉県認知症疾患医療センター
TEL: 047-496-2255 FAX: 047-496-2256



千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護が保たれます。

発行: 医療法人同和会 千葉病院
発行日: 令和元年10月15日
住所: 千葉県船橋市飯山満町2-508
Tel 047-466-2176 Fax 047-466-7503
URL: <http://www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/>

編集後記

当院にはMRI、CTといった画像検査機器が備えており、治療の上で大きな役割を担っております。今号では、その検査部門である放射線画像検査室について紹介させていただきました。ご一読いただければ幸いです。なお、画像検査をご希望の方は、主治医または外来までご相談ください。



千葉病院広報紙 2019. 秋号（第65号） 発行者 医療法人同和会 千葉病院

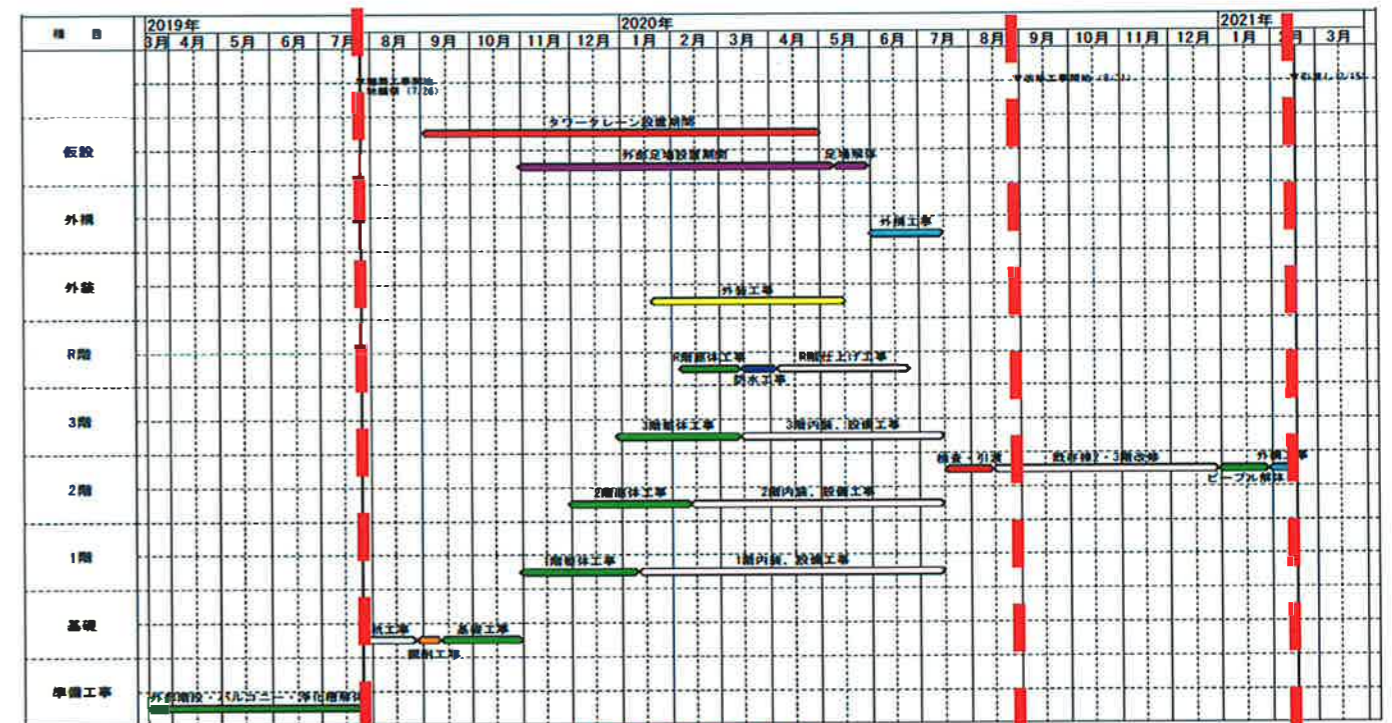
千葉病院 増改築計画 進行中！

千葉病院の増改築工事は、第一段階の「準備工事」が2019年7月で完了し、8月からは第二段階の「新病棟建設工事」が始まりました。

7月26日には、当院管理職員と建設会社による地鎮祭が行われました。

地下配管を整備し、8月いっぱいを使って基礎となる杭を埋設、9月にはタワークレーンが設置されました。10月からは、騒音などが発生しにくい工法を用いて、基礎と1階床部分のコンクリート敷設を行う予定です。

工事に際しては、各種法令に基づいて、騒音・振動などに細心の注意を払って実施いたします。患者様、当院に来院される方、近隣在住の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承ください。



第1段階 準備工事 2019.3~7

第2段階 新棟増築工事 2019.7~2020.8

第3段階 内部改装工事 2020.8~2021.2



7/26地鎮祭



杭打ち



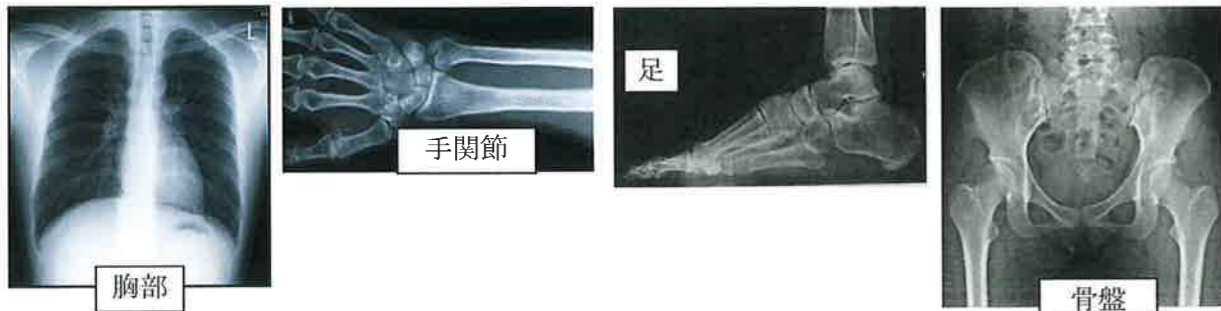
基礎部分の整地(耐震構造の工事)

放射線画像検査室の紹介

放射線検査室主任 小田倉孝典

1：一般撮影

一般撮影（レントゲン写真）は、レントゲン博士によってX線が発見されてから最も広く行われているX線撮影法です。目には見えない体の中の様子を映しだすことができます。主に胸部・腹部・全身の骨などの撮影を行います。



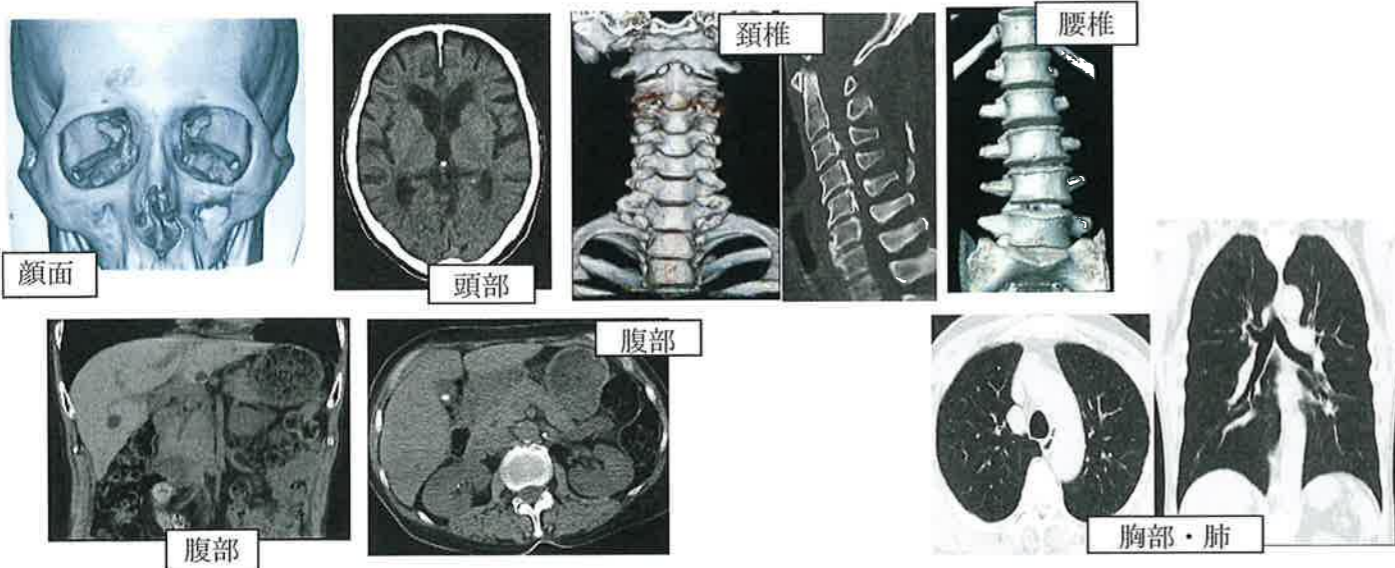
2：骨密度検査

当院では骨粗鬆症の早期発見の為に骨密度測定を行っています。骨粗鬆症とは、加齢や長年の生活習慣により骨がスカスカになって骨折しやすくなる病気です。寝たきりになってしまう原因としては、高齢による衰弱を除けば脳血管疾患に次いで転倒・骨折が第2位となっています。骨粗鬆症は、検査による早期発見と早期治療が必要な病気です。両手のレントゲン写真から骨密度を測定します。



3：CT検査

CTはComputed Tomographyの略でX線を利用し透過率の差を画像にしたもので、急性期の脳血管障害（脳出血、クモ膜下出血）、頭部外傷、骨折や骨病変、石灰化の描出、肺や腹部疾患などに対する診断能力が非常に優れています。検査時間も5～10分程度で終了しますので患者様の負担が少なく済みませます。またCTの被曝は一般撮影同様に体への悪影響は無いレベルですので心配ありません。



4：MRI

MRIとはMagnetic Resonance Imagingの頭文字をとったもので、磁気共鳴診断装置のことです。MRIは大きな磁石による“強い磁場”とFMラジオに使われているような“電波”を使って画像を得ます。

MRIの利点としてはX線検査では見られない脳・脊髄・椎間板・半月板・筋肉・腱・血管などが鮮明に映し出されます。

また、体のあらゆる角度の断面が得られ、身体への悪い影響もありません。しかし強い磁石を使用するので次のような方はMRI検査を受けられないことがありますので、注意が必要になります。

- 心臓ペースメーカー・MRI非対応脳動脈瘤クリップ・金属製の心臓人工弁
 - 人工内耳・磁石式インプラント・血管ステント挿入後8週間以内の方
 - 妊婦、または妊娠されている可能性のある方。
 - 極端に閉所恐怖症な方。（当院MRI装置は開口部を大きく広げて狭い所が苦手な患者様でも検査できるように工夫されています）
- 該当する方は事前にお申し出ください。



【MRI検査の流れについて簡単にご説明いたします】

1. 検査時間はほとんどが30～40分程度ですので、検査前に御手洗いを済ませておいてください。
2. 検査室内は磁場が発生しているため、金属製品は持ち込めませんので外して頂きます。（財布、時計、磁気カード、鍵、ヘアピン、補聴器、入れ歯、ベルト、カラーコンタクトなど）
また化粧品（アイシャドウ等）の中には、金属が含まれているものがあります。検査画像に影響があるだけでなく目の粘膜等を傷つけたりすることがありますのでご注意ください。
3. 検査ベッドの上に寝ていただき、担当技師が体位設定をした後、寝台は装置内に入っていきます。検査中は検査室内に一人ぎりになりますが常に検査担当者との連絡をとることができます。
4. 検査中は耳ざわりの連続音が周囲から聞こえます。多少うるさく感じるとは思いますが、検査中はできるだけ体を動かさずにいてください。
5. 検査終了後は、普通に生活していただけます。

*MRA：造影剤（簡単にいうとレントゲンに写る薬です）を使わずに血管撮影ができます。

